



川すじががらりと変わることがあるのは、どうして

大水のときに、川すじが変わることがある

ふつう、山に降った雨は、山のしゃ面を流れながら、地面にしみこんでいきます。しかし、山に木が少なかったり、山の地ばんが悪い所に、大雨が降ったりすると、雨水は、すぐに川へ流れこんでしまいます。

このようになると、川の上流では、山のしゃ面がくずれたりして、たくさんのどろ水が流れるようになります。川の中流や下流では、どろ水が激しく流れて、大水になることがあります。川すじを大きく変えるもとなるのは、大水のときです。

川の水のはたらきが大きくなる

大水のときには、川の水が川岸にぶつかる力が大きいので、ぶつかった所の川岸をけずったりします。

また、川の流が速く、川の水の運ぶ力が大きいので、土や石などを下流へおし流していきます。そして、流がおそくなった所に、土や石などを積もさせます。

川の曲がり角の川岸がこわれると、川はまっすぐに流れます。また、土や石などが積もって川底が浅くなると、水の流がゆるやかになり、川の流が曲がったりして、川すじが変わってきます。

火山の噴火で、溶岩が川の流を変えたり、せき止めて、湖をつくってしまうこともあります。また、地震による山くずれでも、同じようなことが起こります。

(監修・国司 真)

